

1 自己評価および外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102491		
法人名	社会福祉法人みどり福祉会		
事業所名	グループホーム北山		
所在地	岐阜県岐阜市北山1丁目15番25号		
自己評価作成日	平成21年5月18日	評価結果市町村受理日	平成21年7月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102491&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成21年6月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型の事業となり、当ホームは地域との関わりが少なく大きな課題となっていましたので、運営推進会議を軸にして地域との関わりを取り組んでいます。今年度は地域のサロン、食事会に参加したり、ボランティアさんにホームへハーモニカやフルートの演奏にも定期的に来て頂いています。また音楽の際は併設のケアハウスの方にもホームへ来て頂き、皆さんで楽しむ機会を設けております。入居者様の生活は、決して強制せずご自身のペースを尊重して出来る事をお願いしたり、季節に合わせてですが、外出機会を出来る限り増やして気分転換に繋げられるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議では、利用している地域の図書館について利用者や職員の気づきや提案、家族からホームの食事への要望等も積極的に話し合われており、情報交換と併せ地域の理解や支援を得る有意義なものとなっている。非常勤の職員が多いが、職員同士の関係も良く、互いに思いやり、利用者の思いや意向を把握した職員の温かい対応に結びついており、家族からも職員の異動が少なく定着率が高いと認められている。また、夏祭り等の行事、外出への同行等、ボランティアとの関わりも深く、地域に密着したグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で地域との交流、理解について話し合い理念を作成している。理念に沿って交流を増やしている。	職員は地域密着型サービスについて学びあい、地域との結びつきを重視する等の原則や基本方針を共有しながら作り上げた理念に沿い、適切なサービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のサロンや食事会に定期的に参加したり、ボランティアの方に定期的に訪問して頂いて交流を深めている。	利用者は、地域の一員として、公民館で行われる「いきいきサロン」や図書館、買い物に出掛けている。「呆け老人」等の話題が出た時は、同席した職員が、認知症について解り易く説明し、気持ち良い付き合いが出来るよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域と交流する事でホームの方への理解は頂いているが、支援方法は活かしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月2回会議を行い、ホームの生活状況や地域の情報を頂き、情報交換に努めている。その中で地域との交流事業につなげている。	行政、民生委員、地区役員、家族代表が参加し2ヶ月に1度開催している。ホームでの食事に関することや図書館での気づき等、地域との情報交換も併せ、積極的に発言し、地域と合同の避難訓練実施の実現等も呼び掛けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月2回の運営推進会議で情報交換や解らない事を主にしている。またGH協議会などでも話し合いで交流をしている。	市の担当者には、毎回、運営推進会議に参加してもらっており、介護認定の変化等、情報交換をしている。	さらに、保育園児、小、中学生との交流、事業所の現状等、相談したり伝えたりしながら、課題の解決に協働していくことが期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はやってはいけない事として職員間で統一している。万が一行う時は、アセスメントを行いご家族の同意を得た上で対応する方針を取っている。	管理者以下職員は、身体拘束をしないケアについて、正しく理解し、その取り組みを常に行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は人権保護のために絶対にやってはいけない事を職員間で認識している。学習会に関してはできていない。		

岐阜県 グループホーム 北山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会を行って職員間で周知している。対応が必要な方に関しては支援の手順の情報を頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず説明と同意を徹底して行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員間とは面会時や面談で話し合いを行っている。また第三者機関と契約しているため、外部の投書箱が設置してある。	運営推進会議に参加している家族は食事に関する意見等積極的に発言している。意見箱の設置はあるが、面会時や電話等で直接届く事が多く、出された意見は職員間で共有し、日々のサービスに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	開かれた環境があるので、意見があるときは出してもらっている。職員会議や意見文書を毎月出して意見交換をしている。	管理者は職員との関係がそのまま利用者へのケアに結びつくことを理解し、常に職員の意見をよく聴き、特に非常勤の職員を思いやり、良好な人間関係になるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開かれた環境があるので、意見があるときは出してもらっている。困難な時は労働組合があるので交渉して対応できている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は年間で組んであり、個々で参加して頂いた。外部の研修は進んでいない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GHの会議などで交流をする話し合いはしているが、具体的には進んでいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階からご本人の意見を確認しながら安心した生活につなげるように努めている。またケアプランにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを初期から意見を確認してその都度対応するように努めている。またケアプランにつなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	直接的、間接的な要望を把握して、周囲と相談しながら出来るだけ良いサービスに繋がるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	好きな事、嫌いなこと、出来る事、出来ない事を生活上で把握して、強制はせず無理なくやっけて頂いている。その中で自発的に役割が持てるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを面会時や電話で確認して、できる限り訪問して頂き、ご本人、ご家族の安心感に繋がるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にお願いしたり、当事者の方に職員から来て頂ける様お願いして関係の継続に努めている。場所をご家族に連れて行って頂いたり、無理な時は職員や他のサービスを利用して支援に努めている。	家族との外出、外泊は勿論、友人や世話になった人へ手紙やハガキを出したり、同級生が訪ねて来たり、家での生活が継続出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団の中で愛称が自然に出てくるので、合う方の集団形成を継続したり、孤立し易い方は無理のない程度で、部屋、食堂で話をしたり、気分転換で出掛けて頂く様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からご要望があればその都度対応している。また他施設からの要望にも協力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の尊重を軸に生活の張りに繋がるような事は、どんどんやって頂いている。また声掛けしてやって下さる方には積極的に対応している。困難なときはご本人のためにとって何が一番ベストなのか職員、ご家族で話し合っで対応している。	天候が悪く散歩にいけない日には、ホームの4階までの階段を昇り降りし、景色を眺めながら語り合ったり、日々の何気無い会話や眩き等をカルテに記入し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を把握して、無理のないように出来る事、出来ない事を把握して対応するように努めている。その中でケアプランを評価して、新たな生活支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を自発的に生活される方、声掛けすることでできることを行い生活される方、好きな事だけする方を把握して、自由に生活できる場所を感じて頂けるように支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	評価を含めた職員会議や課題が出た時にご家族との面談などを行い、ケアプランに反映していけるように努めている。	家族の意見や要望を反映した介護計画を作成する為に、作成日には家族の誰かが必ず参加している。職員会議やユニット会議で細かく話し合い、職員の意見も加え、モニタリングしながら、その時その状態に合った介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録をケアプランに沿って記入して、出来ている事、出来ていないことの把握に努め、次回のプランに努めている。また会議や職員の意見書から新たな気づきとして、プランにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対してご本人、ご家族、がどうしたいか話し合い、周囲の機関と相談して新たなサービスの情報がある時は、積極的に利用するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流の中で外に出掛けたり、来て頂く事で楽しみにされている方が増えてきたので、今後も情報を共有して新たなサービスに繋がるよう努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族と話し合い、かかりつけ医が無理な時は往診をご利用していただいている。	家族の同意により母体の病院をかかりつけ医とし、月2回の往診、24時間365日、万全の体制を敷いている。病院が近いので、車椅子での受診も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師がいないので、月2回訪問看護師に情報を伝え、医学管理をしてもらっている。その他でも電話相談や直接相談に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関とは密な関係が成立しているので当ホームからも気軽に相談でき連携がとれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度時、終末期の方針を説明し、同意して頂いている。また状態が変化した際もご家族、主事医を含めて話し合いを行い、方向性を改めて確認している。	看取りの方針が明確にされている。また、医療が必要になったり、重度化したときは法人内の施設に移ってもらう事を契約時に説明し、事前に確認の同意を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急の学習会は行っている。また緊急時の対応も書面を貼って迅速に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、また入居者様が個々に避難する文書を職員にも配り把握に努めている。運営推進会議で災害時に地域の委員さんに協力をお願いしてある。	運営規定の定めにある「基礎訓練」「利用者との総合訓練」等、地域の協力を得て行っている。	災害時の初期体制を職員間で話し合い、災害に対する意識を高め、もしもに備えた体制作りを、段階的に行う試みもされたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当たり前のこととして利用者様を尊重した声掛けに努めている。	管理者と職員は利用者一人ひとりのペースに合った声掛けを行って、目立たず、見守る支援がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来ることや好きなことを日常生活で把握することに努めて、やって頂いた時は感謝の意を伝えて次回に快くやって下さるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務をこなすことが中心となり、支援が出来ていない時期がどこかで来るので、必ず時機を見て職員会議で話し合い、気を締めながら支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お洒落が好きな方は毎日化粧をして頂き、年を重ねてもお洒落心を大切にしている。化粧品も一緒に買いに出掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえを中心に出来る方をお願いしたり、盛り付け、後片付けを手伝って頂いている。嗜好品も出来るだけメニューに取り入れたり、その方だけの提供も行っている。	食材の買い物、野菜の下ごしらえ、食器洗い等、利用者も出来る事を職員と共に行っている。職員は利用者と共にテーブルにつき、さり気なく介助しながら、和気あいあいとした食事風景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態や摂取状態を表でチェックして、水分管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯を使用されている方は毎日のうがいと消毒を行い、ご自分のはがある方は、歯磨きの声かけをしてやって頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意がある方はトイレ誘導を行って自然排泄に心掛けている。	排泄パターンに応じたさり気ない誘導で、排泄の失敗を無くす支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分管理や運動、食事も一品は繊維質の多いものを提供して調整している。薩摩芋が好きな方には、個別やおやつで提供して食べて頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は午後の入浴を行っている。入浴回数は毎日の方、1日おきの方、2日おきの方と個々の状態に合わせて入浴して頂いている。	利用者の体が痒い時や、希望に応じ、毎日の入浴も可能としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の好きな時間に休んで頂いている。夜間暖かい飲み物や、甘い飲み物で落ち着かれる方もいらっしゃるの、個々で対応させて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変化があったときは申し送りノートに記載して連絡している。定期のお薬は処方箋をファイルで閉じて、閲覧できるようにしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好きな事、出来る事を把握、生活上で発見して、個人での外出や喫茶店や外出、個人の趣味を継続できるように支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事の参加や図書館、買い物等個別援助で出掛けている。ご家族と食事に出掛けて頂いている。できる限りご本人の思いに添えるよう努めている。	天気の良い日は、4人に1人の職員がついて、朝夕に散歩している。重度化している利用者も多いが、年に1度、車椅子で花見を楽しんでいる。墓参の希望もかなえていきたいと計画している。	

岐阜県 グループホーム 北山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を全額管理できなくても、持っていたい方にはご家族の了解を得て持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望がある時は電話を掛けてお話をしている。手紙を出したい方も手伝う所は介助し、手紙を出す支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は入居者の方が緑を置いて手入れをして下さったり、職員も花を飾ったり、造花を置いて施設っぽさをなるべく消すように努めている。西日が強いので、カーテンを使って保護している。トイレは解り易いように大きく表示してある。	リビングは落ち着いた造りで、ゆったりと過ごせるよう、季節の花がさり気なく飾ってある。建物の周囲を歩けるよう歩道があり、職員に「行ってきます」と声を掛け、外気を味わい満喫したら帰ってくる利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分の席は、思いが合う方同士で過ごせるようにあわせてある。また独りになれるようにソファを置いてゆったりできる場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持ってきて頂いている。その後もご家族が持ってこられたものを置いたり、ご本人で部屋の環境を作られる方もいらっしゃるの、自由にして頂いている。	馴染みの小物や写真、利用者が作った手芸品などをタンスの上や壁に飾り、その人らしい落ち着いた居室環境が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでまた個々の居室で手すりが必要な方は簡易手すりや手すりの設置をしている。		